

春



姫宮滝川沿い

夏



調整池

秋



四季菜

冬



進修館

ガイドはみやしろ市民ガイドクラブにお任せください

歴史や自然、文化や建築美など幅広い分野の魅力をガイドする「市民ガイドワーク」の企画開催や、宮代の魅力発掘のための研修会を中心に活動しています。



1 利用時間

9時～17時までのうち概ね2時間～3時間

2 運営協力金

参加者数1人につき200円 ※実費負担有

3 ガイドの申込

申込先: 090-6796-7840(千葉) 申込期限: 希望日の3週間前まで



注意事項

散策をするときは、交通量の多い道路や河川沿いなど、交通安全には十分ご注意ください。また、ゴミはお持ち帰りいただくようお願いいたします。自然路や史跡など、コース周辺の見どころには私有地が多く含まれますので、所有者とのトラブルにならないようご注意ください。

【参考・引用文献】本資料をまとめるにあたり宮代町発行の下記の資料を参考にしています。○宮代町史 通史編/社説総合調査 ○宮代の道/平成15年度 宮代町郷土資料館企画展 ○みやしろ歩き歩け1/平成21年度 宮代町郷土資料館企画展 ○その他宮代町関連資料

「歴史」と「自然」を合わせた合成語です。



宮代町役場ホームページ http://www.town.miyashiro.lg.jp/



新しい村ホームページ https://www.atarasiimura.com/

発行: 宮代町産業観光課・みやしろ市民ガイドクラブ 協力: 宮代町郷土資料館 〒345-8504 南埼玉郡宮代町笠原1-4-1 植物園インキを印刷しています。VEGETAR 646 W お問い合わせ: tel.0480-34-1111 2019/12/3,000

1 ぐるる宮代(総合運動公園)

スポーツレクリエーションの拠点。愛称の「ぐるる」は、泳ぐ、投げる、走ると総合運動公園をイメージした3つの言葉から一文字をとってつけられた。



2 宇宮神社(うのみやじんじや)

江戸時代、旧和戸村の鎮守。祭神は天穂日命(あめのほひのみこと)ほか三神を祀る。文明16年(1484)に再建したと伝わる古い社。



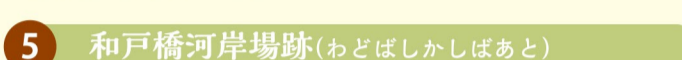
3 胡録社(ころくしゃ)

神社明細帳によると、祭神は大己貴命(おおぬむちのみこと)、少彦名命(すくなひこなのみこと)、韓神(しらかみ)を祀っている。



4 西方院(さいほういん)

町指定文化財の十一面観音像は室町時代の作で、明治時代までは観音堂の本尊であった。25年に一度開帳される秘仏で、古くから子育て観音として知られている。



5 和戸橋河岸場跡(わどばしかしばあと)

幕末期には、江戸の河岸問屋である幸手粕壁問屋の津久井屋利右衛門の営業園に含まれていた。和戸橋河岸から粕壁宿の上喜蔵河岸へ醤油や味噌などを運んだと伝わる。



6 日光御成道(にっこうおなりみち)

徳川家康を祀った日光東照宮に將軍が参詣するため使用された道。日光社参は第2代将軍秀忠を初め全19回行われた。天保14年(1843)第12代将軍家慶の日光社参の途中に、西条原鷲宮神社で休憩した記録が残されている。



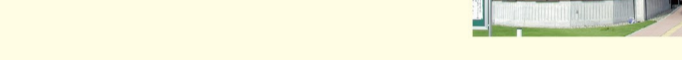
7 旧須賀村役場(きゅうすかむらやくば)

明治22年、5つの村による東条原村連合戸長役場を経て、須賀村が誕生した。合併当初、宝光寺に役場が置かれ、明治40年に現在の和戸駅前側付近に移転。さらに大正3年に現在の和戸公民館の場所へと移転した。



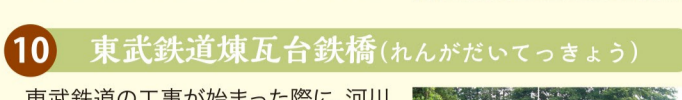
8 和戸教会(わどきょうかい)

県内最初のキリスト教会として明治11年に設立された。創設者の1人、和戸村の小島九右衛門は、横浜に出向いた際にヘボン博士と出会い、洗礼を受けた。小島と同時期に受洗した小菅幸之助により、明治15年に現在の和戸交差点付近に教会堂が建設され、その後移転した。



9 備前堀川(びぜんぼりがわ)

江戸時代の初め、伊奈備前守忠次によって開削されたので備前堀川という。忠次は徳川家康の関東入府に同行し、足立郡小室に居を構え関東郡代として関東平野の開発に活躍した。



10 東武鉄道煉瓦台鉄橋(れんがだいてっきょう)

東武鉄道の工事が始まった際に、河川や用水に掛けられた鉄道の橋台や橋脚に煉瓦が多に使われた。この煉瓦は東京駅の煉瓦と同じもので、渋沢栄一が設立した日本煉瓦製造の深谷工場で製造された。



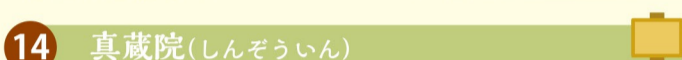
11 和戸駅

12 高野の渡し(たかのわたし)

武蔵と下総の国境にあった高野の渡し。古利根川の下高野付近の別称である高野川の渡しや橋は、鎌倉街道中道が通っていたことから、交通の要所であったとされている。

13 須賀小学校(すかしょうがっこう)

明治6年、宝光寺で西条学校が開校。同7年に和戸の旧観音堂に和戸学校が開校。大正5年、現在地に校舎を移し須賀小学校と改称した。記念木として旧大聖院から「カヤの木」を移植し、「風の木」は、明治44年度の卒業生が植えた開校記念樹。



14 真蔵院(しんぞういん)

医王山大福寺と号する真蔵院は、仁治年中(1240~43)の草創と伝えられる「身代り薬師」という薬師如来を祀ったお堂がある。仁王門は町内唯一で江戸時代中頃の建造と推定されている。参道入口は鎌倉街道と呼ばれている。



15 東条原鷲宮神社(ひがしくはらわしみやじんじや)

祭神は天穂日命(あめのほひのみこと)を祀る。江戸時代の延享2年(1745)から伝わる獅子舞が伝わっている。



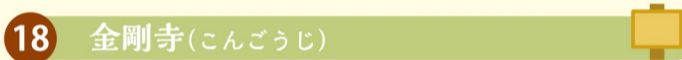
16 宝光寺(ほうこうじ)

天文元年(1532)の創立といわれている。明治22年~40年までは、須賀村役場として使われた。本尊は地藏菩薩で、ぶっさり地藏の話が伝えられている。



17 長福寺(ちょうふくじ)

曹洞宗の寺。江戸時代初期の開山と伝えられる。



18 金剛寺(こんごうじ)

白岡町の興善寺の末寺で、大慈山と称し、本尊は十一面観音を祀る。室町時代後期の創立と伝えられ、付近からは板碑と呼ばれる中世の塔婆も発見されている。



ぶらり 宮代 総集編

6つのコースでぶらり歴史旅



ぶらりポイント!

和戸方面

- 先人の足跡が残る鎌倉街道
● 日光御成道は將軍の通った道
● 埼玉県最古の和戸教会



東武動物公園方面

- 人と人をつなぐ名建築
● 文化都市の象徴日本工業大学
● 自然の中に生きる新しい村



姫宮方面

- 歴史を伝える郷土資料館
● 長い時代を生きる西光院
● 姫宮神社に残る宮目姫の伝説



魅力いっぱい!



19 身代神社(このしろじんじや)

主祭神には素戔鳴命(すさのおのみこと)を祀る。創建は、鎌倉時代の仁治3年(1242)と伝えられる。現町名の「宮代町」は、姫宮神社の「宮」と、身代神社の「代」から名付けられたもの。

20 日本工業大学・工業技術博物館

明治40年東京工科大学として創立し、昭和42年新制大学として宮代町に設立された。キャンパス内に開設された博物館は、250もの工作機械を動態保存して、一部は国登録有形文化財になっている。



21 女衾宮(にょたいぐう)

京都で学問を教えていた蓮谷(本田3丁目)の鈴木家の先祖は、貴族の三条家の姫君と恋仲になったが、身分の違いから結ばれまいと感じ、突然蓮谷に戻ってしまった。姫君は男を慕い京都から追ったが、途中何者かに襲われ鈴木家の近くの池に身を投げた。哀れに思った付近の人達が、池のほとりに女衾宮を祀り姫の霊を弔った。



22 東武動物公園駅

東武動物公園西口の地面には、動物の足跡をかたどった県産木の木が随所に取入れられ、線路を模した舗装道路や古いレールのオブジェなどが設置されている。



23 辰新田浅間神社(たつしんでんせんげんじんじや)

元々は稲荷社の境内社。祭神は、木花咲耶姫命(このはなさくやひめのみこと)。一部の地域では、毎年7月1日初山の日に、当社と赤松浅間神社、杉戸町にある河原の浅間神社の3ヶ所を参拝する「三山」と呼ばれる習わしがある。



24 進修館(しんしゅうかん)

宮代町の自然豊かな風景に溶け込むデザインをコンセプトに、象設計集団が設計を担当。昭和55年オープン。町民の様々な活動の中心地として使われている。



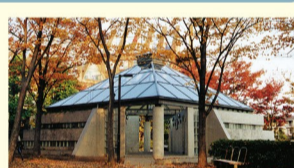
25 町役場庁舎

人と自然に優しい庁舎。誰もが使いやすい庁舎を基本コンセプトに設計され、県産木材を豊富に活用した木造庁舎。整備にあたっては、「新庁舎基本計画策定委員会」によって町民参加による基本方針が策定されたことも大きな特徴。



26 四季菜(しきらく)

デザイン、サイン、名称をすべて公募してつくられた町民の心と知恵が集まったメイドイン宮代トイレ。国際トイレシンポジウム96で「グッド・トイレ10」に選出された。



27 蓮谷稲荷神社(はすやいなりじんじや)

旧蓮谷村の鎮守。祭神は、倉福魂命(うのみたまのみこと)を祀る。御神体を納めた箱に書かれた文字から、明和3年(1766)に京都伏見稲荷神社から「正一位稲荷大明神」の神璽を与えられたことが分かる。



28 笠原小学校(かさはらしょうがっこう)

象設計集団の設計により昭和56年に完成。宮代町に古くからある切妻型瓦葺きの2階建て農村住宅を具体的モチーフとし、「学校はまち」「教室はすまい」「学校は思い出」の3つのコンセプトをもとに造られた赤い外壁と瓦屋根のユニークな学校。



29 図書館

平成6年開館時は、町村レベルで東日本一の規模を誇った。現在でも、町民1人当たりの蔵書数、貸出冊数ともに県内市町村でトップクラスにある。



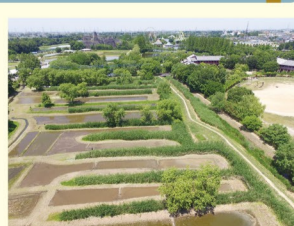
30 新しい村

農のあるまちづくりの推進拠点として平成13年度オープン。地元産の新鮮野菜や特産品を販売する森の市場「結」のほか、三角屋根の「森のカフェ」では軽食が楽しめる。また、メデイカルハーブガーデンでは、様々な品種のハーブや花を見て、触れて、楽しむことができるエリアになっている。



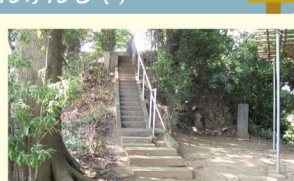
31 ほっつけ

宮代町周辺では柳歯状の沼(堀)が付属する掘上田のことを「ほっつけ」と呼ぶ。笠原沼新田は、享保14年(1729)に幕府の役人の井沢弥惣兵衛が永くより開発された。江戸時代の水田開発を今に伝える掘り上げ田が復元されている。



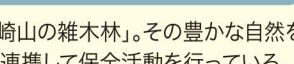
32 赤松浅間社(あかまつせんげんしゃ)

江戸時代後半に富士信仰の神社として創建された。祭神は、木花咲耶姫命(このはなさくやひめのみこと)を祀る。以前、赤松の大木があったことから赤松浅間社と呼ばれている。



33 山崎山(やまざきやま)

さいたま緑のトラスト保全第5号地の「山崎山の雑木林」。その豊かな自然を後世に残すため、市民団体や県、町などが連携して保全活動を行っている。



34 山崎山遺跡(やまざきやまいせき)

平成2年度の発掘調査により埼玉県で最古の約1600年前の鍛冶工房跡が発見された。当時の最先端技術を伝える鍛冶工房の存在は、この地域の地理的・交通的な重要性、さらには畿内大和王権との関係を示している可能性もある。

35 山崎遺跡(やまざきいせき)

旧石器時代から縄文時代早期~後期、古墳時代の遺跡。これまでの発掘調査では、旧石器時代の石器をはじめ、縄文時代では早期(約7000年前)の住居跡、貯蔵穴や炉穴なども発掘された。なお山崎遺跡は埼玉県選定重要遺跡に選定されている。

36 農のモニュメント

「農に光あれ」。農のあるまちづくりの象徴として、平成13年、銅板作家・赤川政由さんによって作られた。農の資源を市民全体で維持・発展させ、様々なまちづくりに生かしていく考えに基づくもの。



37 農の道

内郷用水に沿って、百間小学校から山崎山をむすぶ約2キロメートルの道。新緑の香りと田園風景など四季折々の自然が楽しめる。

38 郷土資料館(きょうどしりょうかん)

宮代町の資料を展示した常設展や特別展、企画展、講座、体験学習教室などを行っている。敷地内には町指定文化財の日加藤家住宅、旧齋藤家住宅、旧進修館のほか、縄文時代の復元住居などもあり、コンセプトは「敷地全体が博物館」である。



39 金原稲荷神社(保食社)(かねはらいなりじんじや(うけもちしゃ))

江戸時代には、西光院の末寺であった宮崎坊の境内に稲荷神社があった。稲荷神社境内にある金山大明神は金原地内の「カジャシキ」の神様と伝わっている。



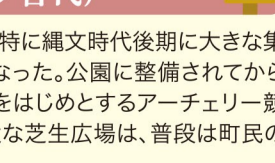
40 遍照院(へんじょういん)

西光院の末寺で金谷山と号し、本尊は地藏菩薩を祀る。創立については応徳2年(1085)に清範法師によって開かれた説と、天正元年(1573)に祐源が開いたという説がある。



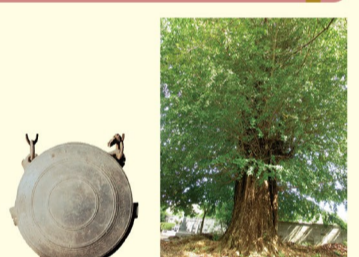
41 金原遺跡(はらっパーク宮代)

旧石器時代から中近世にわたる遺跡で、特に縄文時代後期に大きな集落があったことが発掘調査で明らかとなった。公園に整備されてからは、彩の国まごころ園体やインターハイをはじめとするアーチェリー競技会が開催されている。会場となる広大な芝生広場は、普段は町民のスポーツと憩いの場となっている。



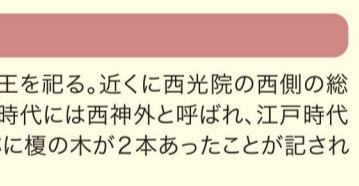
42 宝生院(ほうしょういん)

室町時代の開基と伝えられる西光院の末寺の宝生院。応永21年(1414)の銘がある銘口や、めずらしい巨大な乳根、目通り5.5mを測る町指定文化財の大イチョウがあり、樹齢400~500年と推定されている。



43 神外坊(じんがぼう)

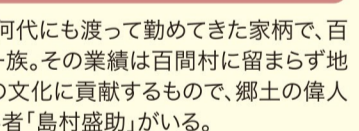
西光院の末寺で、本尊は不動明王を祀る。近くに西光院の西側の総門があったといわれている。江戸時代には神外と呼ばれ、江戸時代後期の西光院の図面に神門跡に榎の木が2本あったことが記されている。



44 島村家

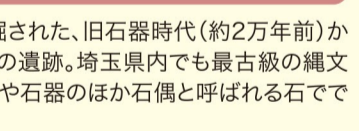
※民家のため、駐車・立ち入りはご遠慮ください。

百間中村で江戸初期から名主を何代にも渡って勤めてきた家柄で、百間村を牽引した人々を輩出した一族。その業績は百間村に留まらず地域の文化、江戸~明治期の日本の文化に貢献するもので、郷土の偉人として夏目漱石に師事した英語学者「島村盛助」がいる。



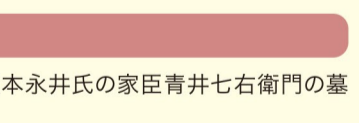
45 前原遺跡

町営グラウンドの整備に伴い発掘された、旧石器時代(約2万年前)から縄文時代後期(約3500年前)の遺跡。埼玉県内でも最古級の縄文時代早期のムラの跡からは、土器や石器のほか石偶と呼ばれる石でできた小さな人形が発見された。



46 観音寺(かんのじ)

江戸時代百間東村を支配した旗本永井氏の家臣青井七右衛門の墓が残されている。



47 西光院(さいこういん)

奈良時代の僧「行基」による草創と伝えられる。本尊は薬師如来。もとは百間山光福寺と称し、戦国時代の末期頃から西光院と称される。江戸時代には、末寺、門徒を合わせて27ヶ寺を数え、この付近の新義真言宗の中心的寺院であった。



48 五社神社(ごしゃじんじや)

熊野三山、白山、山王の五社を1棟等間隔に合わせて祀ったところから五社神社と称されている。祭神は天忍穂耳命(あめのおしほみのみこと)、他7社で、安土桃山時代の頃に建てられたものと推定される。本殿は県指定文化財である。



49 姫宮神社(ひめみやじんじや)

昭和30年の須賀村との合併の際、姫宮の「宮」が現町名の一部となった。本殿は江戸時代の正徳5年(1715)に建立。拝殿の海老虹梁には文久3年(1863)とあり、拜殿には多数の絵馬が奉納されている。



50 姫宮駅